



スマイル通信

地方独立行政法人京都市立病院機構
発行:2021年4月20日

京都市立京北病院
TEL 075 (854) 0221

No44

「世界一の、小さな病院」

京都市立京北病院 病院長 森 一樹

令和3年4月から、病院長に就任しました森一樹と申します。

平成14年から、救急科部長として京都市立病院に勤務、同27年からは京都市立病院副院長、京都市立病院機構理事として病院の運営に関わってきました。時に京北病院でも当直や訪問診療をさせていただきながら、地域の皆さんと一体となった医療やケアを羨ましく拝見していました。今回京北病院で仕事ができることにワクワクしています。



今まで、総合内科、公衆衛生、消化器内科、高齢者医療、救急医療などの診療に携わってきました。75歳以上の方は、一人平均2.5の疾患を有すると言われていています。京北病院で求められている医療は、年齢・性別・臓器に関わらず患者さんとその家族や地域に住んでいる方の健康問題に幅広く、総合的に対応できる医療です。私のこれまでの経験を少しでも生かし、力になりたいと考えています。

京北病院は、京都市立病院と距離は離れていても「見えない廊下」でつながれています。手術などの専門的な治療が必要な時は市立病院に入院していただき、その後のリハビリ等は京北病院で行います。電子カルテは共通で、「患者さんの事を一番知っている」京北病院のスタッフ、「疾患の専門知識を持つ」市立病院のスタッフが密接に情報交換しながら治療を進めていきます。京都市立病院との距離が更に縮まり皆様のお役に立てるよう努力してまいります。

患者さん、地域の皆さんにお願いがあります。

私たちが大切にしていることに「次世代の医療者の育成」があります。そのため内科専攻医、内科研修医、新規採用看護師、看護学生などの受け入れを行っています。京北で行われている、地域と病院が一体となった医療は、正に「日本の医療の原風景」だと考えています。若い医療者にその魅力を感じて、未来の医療を担ってほしい。皆様の温かいまなざし、時には厳しいお言葉をいただけましたら望外の幸せです。

私の夢は京北病院を、「世界一の、小さな病院」にすることです。そのために地域の皆さん、職員と共に歩いていく決意です。これからも京北病院をよろしく願いいたします。

中庭の台杉を剪定していただきました

4月某日、病院のご意見箱に中庭の植木の手入れについてのご意見をいただきました。またその方は「もし良ければ自分が台杉の枝打ちをしますが」とも申し出て下さりました。ご連絡をさせていただき、早速手入れしていただきました。スッキリ綺麗になり見栄えも良くなりました。ご厚意、大変有難うございました。



中庭の桜が今年も咲きました

日に日に暖かくなってきました。
中庭の桜も綺麗に咲いてくれました。

来院時は体温測定をお願いします

ご来院の際は体温測定をお願いいたします（玄関ロビーに体温計を設置しております）。また受診されます患者さまにつきましては、「体調確認チェック票」を記入していただき受付時にお出しいただきますようご協力をお願いいたします。チェック票は玄関ロビーにも準備しております。



副看護師長 建家 一美



4月1日付で京都市立病院より異動してきました建家（たてや）一美です。
1階病棟で勤務しています。
毎日京都市内から桜並木を見ながら国道162号線で通勤しています。
この京北の四季折々の自然を感じ、地域の方々との出会いを大切にしたいと
思います。よろしくお願いいたします。

事務室 船野 正吾

4月から、事務室に配属になりました船野（ふねの）正吾と申します。北区に生まれ育ち、京北地域は学生時代によくバイクツーリングで訪れた思い出深い地であります。栗尾峠にトンネルが開通し交通の便がとてもよくなっており大変おどろきました。自然豊かな京北地域において、これまでの医療事務経験を活かし、一日も早くみなさまのお役に立てるように頑張りたいと思います。休日には、趣味の溪流釣りやキャンプなど野外活動を通じて地域のみなさまと交流できたらと考えています。
どうぞよろしくお願いいたします。



NEW **新職員紹介** FACE

看護師 吉田 亜紀



このたび京北病院にお世話になることとなりました。
医療の多様化、住民の高齢化が進む中、地域住民の皆さまが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、患者様やご家族の生活や人生を

大切にし、看護としてできることは何かを入院時から考え、多職種と連携を図ってまいります。

また、一緒に働く仲間を尊敬し、看護専門職としての自覚を持ち倫理観、思考力、創造力、実践力を養いながら、人としても看護職としても成長していきたいと思っております。 どうぞよろしくお願いいたします。

私が看護師を目指したきっかけは、高校生で受けた一次救命の講習でした。もし倒れている人が家族や友人だった場合に瞬時に助けられる人になりたいと思いました。そこから人の命を助ける仕事や介護にも興味があったことから看護師になろうと思いました。

私は自信が持てず不安を抱えることが多いですが、先輩看護師の指導や患者さんとふれあいながら成長していきたいと思っております。生まれも育ちも京北であるため、地元の病院で働けることを誇りに持って頼れる看護師になりたいと思っております。

看護師 村上 璃恵

